

## 愛媛県立図書館利用案内

### ★本を借りるとき★

1. 「利用カード」を作しましょう。
  - ・愛媛県在住・在学の方は、だれでもカードを作れます。
  - ・本人の住所確認ができるもの（生徒手帳や保険証など）が必要です。
2. 本は、5冊まで3週間借りられます。
  - ・カウンターに、借りたい本とカードを出してください。
  - ※本は大切に扱い、友達に貸したり失くしたりしないようにしましょう。

### ★本を返すとき★

1. 返す本をカウンターに出してください。（カードはいりません。）
  - ・次の予約が入っていない場合は、延長ができます。
2. 図書館が閉まっているときは、玄関外の返却ポストに入れてください。
  - ※本が汚れていたり、大事なものはさんだりしていないか確認してください。
  - ※返却期日は守りましょう！！

### ★本を探すとき★

1. 図書館の検索用コンピュータで探すことができます。  
（書名や著者名で検索できます。）
2. インターネットや携帯電話から探すこともできます。
  - ※分からないときには、カウンターでたずねてください。

### ★本を予約するとき★

1. 予約カードに必要事項を記入して、カウンターに出しましょう。
2. パスワードを登録すると、インターネットや携帯電話から予約することもできます。
  - ※パスワードの登録は、カウンターで申請してください。



みきゃん

#### 愛媛県立図書館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内

TEL:089-941-1441(代) FAX:089-941-1454

★開館時間★(火～金)午前9時40分～午後7時  
(土日・祝日)午前9時40分～午後6時  
(子ども読書室は午後5時まで)

★休館日★ 月曜、館内整理日(月末)、年末年始

<http://www.ehimetosyokan.jp/contents/index.htm>  
(携帯サイト <http://www.ehimetosyokan.jp/contents/i>)

## 愛媛県立図書館 YAコーナー

# YAつうしん

Vol. 41 2015.9



### ★新刊案内★

- ☆『風のヒルクライム』加部鈴子 岩崎書店
- ☆『英語にない日本語』『日本語にない英語』ノーアム・カツ 宝島社
- ☆『錦織圭さらなる高みへ』塚越亘 廣済堂出版
- ☆『いま、君たちに一番伝えたいこと』池上彰 日本経済新聞出版社
- ☆『おとなになるってどんなこと?』吉本ばなな 筑摩書房
- ☆『夏目漱石、読んじゃえば?』奥泉光 河出書房新社
- ☆『武道館』朝井リョウ 文藝春秋
- ☆『大奥の座敷童子』堀川アサコ 講談社
- ☆『先生、洞窟でコウモリとアナグマが同居しています』小林朋道 築地書館
- ☆『ウソつきとスパイ』レベッカ・ステッド 小峰書店
- ☆『芸人と俳人』又吉直樹×堀本裕樹 集英社
- ☆『傘をもたない蟻たちは』加藤シゲアキ 角川書店



←携帯サイトはこちら。

本の検索や予約ができます。

登録にはパスワードの申請が必要です。





## 『からすのてんぷらやさん』 かこさとし/作・絵 偕成社

『からすのパンやさん』から40年。パンやさんの子どもたちの物語が書かれました。『からすのやおやさん』『からすのそばやさん』そしてこの作品。

ある日、かえでどおりのてんぷらやさんが火事になってしまいます。レモンちゃんたち若いからすは、主人のキュウベエさんから秘伝を学び、てんぷらやさんの再興に向けて活躍します。



その活躍は、やがてレモンちゃん自身にも幸せをもたらすのです…。作者かこさとしさんによる含蓄のある「あとがき」も必読です。

## 『木をかこう』 ブルーノ・ムナーリ/作 須賀敦子/訳

ブルーノ・ムナーリはイタリア生まれの国際的な造形家です。この本では、ムナーリが私たちに「木の描き方」を教えてください。規則は一つ、「枝は、幹から遠くなるほど、だんだん細くなる」。この規則に従いながら、少しずつ形を変えることでさまざまな木が描けるのです。



紙に書くだけでなく、紙を切ったり、針金で作ったりする木、また、「ぜんぜん、なにもかけない」という人のためのアドバイスも。

一緒にかいてみるのもいいし、見るだけでも美しくおしゃれな本です。

## 『まぼろしのおはなし』 ハイメ・ガンボア/文 ウェン・シュウ・チェン/絵 星野由美/訳

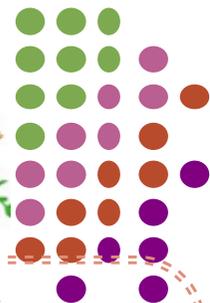
ミュージシャンでもあるコスタリカの作家と、建築家としての経験があるイラストレーターのカットニングペーパーによる造形が美しい絵本。



まぼろしのおはなしは、だれにも読まれることなく、図書館の暗い片隅にひっそりと隠れていました。ある日、一冊一冊、本の背をさわって本を探す、ひとりの女の子が現れるまでは。

「まぼろしのおはなし」の真実に心が動かされます。

絵本は小さい子どもの読むものだと思いませんか？  
絵本には大人が読んでも心に響く、勉強になるものがたくさんあります。こんなあったんだ！と驚く、誰かに読んであげたくなる絵本を紹介します。



## 『あずきとぎ』 京極夏彦/作 町田直子/絵 東雅夫/編 岩崎書店

「京極夏彦の妖怪えほん」シリーズの一冊。  
「あずきとぎ」(「小豆洗い」とも)は、川のそばで小豆を洗う妖怪。その音に気を取られた人間は川の中に誘い込まれてしまうという。夏休みの間、おじいちゃんのいる田舎で過ごす少年。そこには大きな川があった。「おぼけなんかいないさ」「きをつけていけばへいきさ」。……しよきしよきしよき。



妖怪の姿はどこにもありません。小さな子どもに読ませるのが心配なくらい、とつてもつても怖—絵本です…。

## 『正しい暮らし方読本』 五味太郎/作 福音館書店

正しい本の読み方、正しい「正」の字の書き方、正しいお弁当のあり方、正しい象の見方、正しいしかられ方？……。

五味太郎さんの楽しい絵と、ウィットにとんだ言葉で、「正しい」やり方を学びます。

そういわれてみればそうかもしれない、と納得したり、いや？本当にそうだろうか？と考えなおしたり、頭が働きはじめる絵本です。



## 『THIS IS NOT MY HAT』 Jon Klassen Candlewick Press

「A fish has stolen a hat. And he'll probably get away with it. Probably.」  
大きな魚の帽子を盗んで逃げる小さな魚。さて、うまく逃げ切れるのでしょうか…。

長谷川義史さんによるこの絵本の日本語版『ちがうねん』と読み比べてみてください。英語のリズム感、スピード感とともに、日本語(関西弁)の懐の深さを感じられることでしょう。



ご質問やご意見は、メールでも受け付けます。

アドレスは、[ya@libnet.ehimetosyokan.jp](mailto:ya@libnet.ehimetosyokan.jp)  
(件名に「YAメールレファレンス」と入れてください。)

★お名前、連絡先メールアドレスも忘れずに入力してください。